

# 都市幼兒教育の問題 (二)

—— 或る講習會の速記 ——

倉 橋 惣 三

## (三) 幼兒の遊戯活動に關して

その色々考慮を要するものゝ中で、殊に今日の幼稚園に重要性の多いものを茲に代表的に取出して見たいのでありますが、先づ遊戯の問題であります。遊戯といふことは子供の生活に取りましては勿論非常に大事なものでありますが、今日の幼稚園或は低學年に於て用ひられて居ります遊戯といふものは、何處に重點を置かれて居るかといふことは考慮した方が宜いと思ふ。或は色々な仕事をさせたりすることは教育的になり過ぎるかも知れませんが、遊戯の方は子供が好きでやつて居るのであるから、一番幼稚園らしくて良いものだ云ふ人があるかも知れませんが、そこを私はもう少しつゝ込んで考へてみたいと思ふ。

今日教育に於て子供の遊戯が尊重されて居る立場は私は大體四つ考へて見る。その一つは體育主義である。勿論遊戯といふものは體育上良いものに相違ない。第二には情操主義、これも結構な立場に相違ない。その次には情操主義を一層し

つこいものにしてまして藝術的教育といふ立場から遊戯を尊重する。その藝術教育が更にしつこくなりまして、遊戯といふものを見世物主義でやる人も中にはあります。遊戯が上手か下手か、人に見せるに都合の良いものでありますから、かういふ影響も生ずるのであります。併しながら體育のために効果があつたか、情操教育、藝術教育の上に効果があるかといふことは勿論遊戯に取りまして大事なことでありますけれども、子供の生活の側から見ました遊戯の意義は、もう少し外の所にあると私は考へるのであります。遊戯といふものに依つて生じ來たる教育的効果は、體育であり、情操教育であり、藝術教育でありませう。けれども遊んで居る時の子供がどう生活して居るのか。何が子供に遊戯の楽しみを與へて居るのであるかといふ、子供の側に就いて考へてみますと、全くこれとは違つたものが考へられると思ふのであります。決して子供は體育のために遊戯をして居るのではありません。暫く遊んでみて健康を考慮するといふこともなければ、或は頻りに綺麗なこゝをやつてみて情操が陶冶されて來たといふやうなこゝを思ふのでもない、そんなこゝは先生だけが考へて居る話であつて、子供の方から云ひますと、私は遊びの面白さといふものは三つあると思ふのであります。その一つは、遊んで居る最中に於きまして、ものに關係して來ませんから、かなりの自由感が與へられるのである。自由感といふものを除いてしまつたら、子供の遊びといふものゝ生命はなくなつてしまふ。即ち何かものにくつ付いて行きます時にはさう自由には行きません。例へば繪を畫く時には、如何に自由畫と云ひますけれども、そんなに自由に行くものではないと思ふ。例へば自由畫でコップを畫きまして、それがコップのやうに見えなくては自分でも落付けません。私が決して繪を畫きませんのは、その窮窟なこゝが嫌ですから、私の畫いたものはどうも似て來ないので繪を畫きません、たゞ何でも宜いから畫けといふなら私は幾らでも畫くのでありますけれども、兎に角似なくてはいかぬ。又字を書くといふ時にも、字の巧い拙いは假に別としましても、山といふ字はさういふ恰好、川といふ字はさういふ恰好さきまつて居る。子供がそ

の窮窟を楽しんで居りますか。お手本はこゝが長くてそこで止めるのださういふやうな窮窟を楽しんで居る所もあります。けれどもくしやくを書いて所謂自由畫を出したのではものにならない。話をするのでもやたらに自由には行きません。先刻、かういふこゝを話すのを楽しんで居るに云つて下さいまして、實際楽しんで居りますが、併しこゝへ来て楽しんで居るから云つて目茶苦茶なこゝを言つて居る譯には行かぬ。兎に角ちゃんとしたこゝを言つてゐなくてはなりません。私は英吉利に居りました時に非常に面白い子供に遇つた。それは英吉利に行つて居ります日本人の子供であります。英吉利に相當長い間居るので、四つ位の子供であるが、英語も中々分る。そこで西洋の人と英語で話をします。けれども少し混入つて來ますと子供が小さいから分らない。私共ならばそれを色々苦しんでやつて、餘り旨く行かぬをやめてしまふ。西洋人と暫く話をした後は三日位氷嚢でも頭に乘せなければならぬように疲れる。所がその子供は簡単な英語で話をして居りますが、その内に混入つて來ますと、たゞべらくでたらしめを言つて居ります。私共がたらしめを云つたら相手もびつくりしませうけれども、相手よりもこちらがびつくりしてしまふ。その子供はべらく云つてそれで宜いと思つて居るので、實に羨ましいと思つた。何か口を動かしてゐればいゝと思つて居る。その中に英語が出る所もありませうし、日本語が出る所もありませうし、何處の國の言葉でもないものも出るこゝもありませう。けれども實際に於ては話をする時にそんな自由な感じは出來ませんで、兎に角矢張りエクスペッションをして行かなければならぬ。歌はもう少しそれらより自由である。殊に鼻歌などはかなり自由であります。口ではない鼻だなんて云つて、鼻の力に責任を託して居りますけれども、常磐津か清元か義太夫か分らぬやうなこゝを云つて歩いて居る人がある。實に自由感に浸つて居るものであります。が、矢張り歌でもふし、こゝいふものはありませうし、歌には言葉が入つて居りますから、少しは目茶苦茶のたらしめを云ひながら一寸變に思ふ。所が遊戯になりますと、これは思ひ切つて自由に行くのであります。皆様が遊戯

云ひます。遊戯で習つたものを一つでも違ふと叱られるとお思ひになるかも知れませんが、もこもこ起つて来た時には、その起つて来た氣持を單に手足を動かすこゝに現はすのも遊戯であります。あなた何をして居るのかと云つても構はぬ。確かに所謂形をなしてゐる。たゞ溢れて来たエモーションが身體活動になつて来た遊戯が自らリズムに合つたものは實に自由であります。この自由といふものが遊戯の中の實に重大なる要素をなして居るものであります。

第二にはこの自由さの中に自分をすつかり忘れて居るのが遊戯の特色である。言換へれば、自分を忘れてゐなければ遊戯の特色になりません。歌の方は餘程觀念が入つて居りますから、自分を忘れてしまふ譯にはいかぬ。良い氣持になつて何をして居るのか忘れてしまつたら、その次の文句が分らない譯であります。遊戯の方は踊つて居る内に自分の中に出て来るものが自分の運動に出て来るものであるから、自分の中に出て来たものを自分が意識する必要がない。意識を仲立にしない生活活動でありますから、こゝに自分を忘れるのであります。私はこの夏田舎の温泉に居りました間、よく夜になつて盆踊りを見ました。その盆踊りをやつて居るのを見るに、生れながらにして下手な人が居る。初の内はその人は心配して廻りの人を見ながら時々頭を掻いたりきまりの悪さうな顔をして踊つて居りますが、その内に所謂自己を失つてしまつて、何だか知らぬこゝをやり出す。そこが遊戯の所謂クライマックスである。自分を始終意識して居る間は遊戯といふもの、クライマックスに行くものではありません。この自己を意識しなくなるこゝが遊戯の特色である。

もう一つの問題は、少し意味が違つた問題であります。子供がさういふ風に遊んで居ります所謂遊戯を見ます。あの遊戯の中で筋肉が伸びて行くものであると云はれて居ります。石を抛るにしましても、石を抛るといふこゝが愉快かといふに、腕が伸びるこゝが愉快であるこゝは申すまでもありません。競走をする時には、一ぱい脚を伸ばすこゝが愉快であつて、筋肉の一ぱいの緊張といふこゝに愉快がある。筋肉の一ぱいの緊張を合せて精神の一ぱいの緊張が、所謂イ

ンスタクチャ即ち本能的な生活が一ぱいに發揮されて行く所が遊戯の一つの大きな面白い點である。石蹴をしても本能であります。競争をしても本能であります。ぢやんけんをしても本能であります。かういふことを眺めて來ますと、私は子供の遊戯さいふものは、自由感、忘我、第三には筋肉にしても本能感情にしても、伸び々々それを外へ發揮して行く所にあると思ふのであります。

所が今日の幼稚園：：低學年もさうかと思ひますが：：の遊戯を見ますと、それこまるきり別の傾向に行つてゐるのではないかと思ふ。實に自由感ではありません。私は幼稚園でやる色々なことを見ました。私程幼稚園のあらを知つて居る人間はなからう。幼稚園を見てゐて情なくなる。子供が色々勝手なことをやつて居りますと、先生が「さ、お遊戯ミ呼びます。そのお遊戯ミ呼ばれた丁度その時、子供が一つ何ミか一番踊りたいなさいふ氣持で居るならば宜いでせうが、私は子供はそんなに踊りたがるものではないかと思ふ。殊に先生が靜かにピアノでも弾いてゐて下さつて、その部屋の前を通りがかりにピアノの音が聞えたので、むら／＼と踊りたくなつて來たさいふことはあるかも知れませんが、子供が外で友達同志で色々なことをやつて居る時に、何か一つ藝術的な踊りをやりたいなさいふやうな氣持が起ることは、決して子供にあるものではない。それを先生が遊戯をさせよう云つて集めるのであります。さうするミ子供はそこに集つて來まして、その中にはまたあれか、さうんざりした氣持を起す者もあります。多くて十か十五の遊戯を繰返し繰返しやつて居る場合に於きましては、またあれかさいふうんざりした氣持がする。それを子供が來ました時に先生がその遊戯をピアノに依つてやらせる。又例の揃はせまして、さ、こやる。子供は横を向いて面白い外のことを考へて居る。それを先生が遊戯の中に入れて來て、なぜあなたは踊らない、なぜしないか云ふ時に、所謂自由感さいふものは全く反對のものになつてしまふのであります。私は幼稚園に於て子供に常に自由感を持たして置かなければならぬさいふことを主張して居る

のではありません。教育さいふ子供に對する儼然たる意義を持つて居るのでありますから、自由感ばかり訴へて行かうさいふのではありませんが、遊戯さいふものから自由感をなくすはその存在價值を認められないさいふ意味からしまして、遊戯の中に自由感の失はれて居るこゝは大きな問題であると思ふのであります。

又遊戯をやつて居ります中に、先生が色々さうしてあゝしてさいふこゝを御注意になる。私は幼稚園の遊戯の教へ方さいふものに就いて、低學年の遊戯の教へ方も同じだらうと思ひますが、決して子供がやつて居ります間に、そこに行つてあなたの足の踏み方が違つてゐる、手の上げ方が違つて居る、かうするのだ、あゝするのださいふやうな教へ力をすべきではないと思ふのであります。これは私のひがんだ解釋かも知れませんが、皆さんが遊戯の講習をお受けになります時には、大抵遊戯指導の先生が皆さんを踊らして置いてきよろしく見て廻つて、そこはいかぬ、あすこはいかぬやつて居る。成程先生が一番初に一寸踊つて見せるか知れませんが、踊つて見せる時には皆見て見て云つて、踊りながら自分の踊りを意識して見せてくれるのであります。さういふ中で遊戯の講習をお受けになりました、今度幼稚園に行つて子供に對して行く時に、その方法をお取りになるのではないかと思ひます。先生は一生懸命にピアノを弾いたら宜しいではありませんか。そしてピアノの力で子供を踊らしたら宜い。ついでに悪口を云ひますが、そのピアノはろくに弾けもしない癖に(笑聲)ピアノの方には一生懸命になれないで、自分はみんなかんかな弾き方をしながら、それはいかぬ、これはいかぬ、誰の手が上つた、さうだと言つて居られますが、これでは折角子供が遊びの中で自己を忘れようとして居るのを又自分を意識にかへすものであつて、これは非常に拙い遣方ではないかと思ふ。中にはぢつとしてゐてやり切れないこゝ、ピアノを放擲してふつと出て来て、外の子供はさうしたのかと思つてゐるこゝ、又あなたはいけなさい云つて叱つて居る。踊りの師匠ならこれで宜しいと思ふ(笑聲)。その子を鍛へて藝名させようさいふならば、弾いてゐながら撥でぶんなぐるのも

宜いでせう。けれども自己を忘れることを本質として居る遊戯、せめて幼稚園のリズムで社會を忘れさせようとする時には、足がさうだらうが、手がさうだらうが、弾いて弾いて弾きまくつて、リズムに酔ふまでやつたら宜いではありませんか。子供が繪を畫いた時に、お前は酔つて畫いたのか、コップのやうぢやないな、なんて云ふことは出来ません。繪を畫いたら、繪は停滞表現であるから、それに代らなければならぬ。子供が何かお話をする。でたらめを云つて居る時に、酔つてゐるのだねこいふことはまさか子供には云へますまいけれども、遊戯こいふものは私は酔ふのが本當だらうと思ふ。手の曲げ方がさうだらう、足の上げ方がさうだらうこいふことは考へなくて宜いと思ふ。本來の遊戯の遣方はまるで違つて居ると思ふ。先生はピアノを弾いて遊んで居る。子供は足を振り手を振つて遊んで居る。その中にピアノも要らなくつて、先生も出て踊るこいふやうでなければ、幼稚園の遊戯は本當でないと思へるのであります。

遊戯こいふものは自分の筋肉を伸ばすにあるこいふ意味からは、幼稚園の遊戯は筋肉を出来るだけ伸ばしたら宜しい。今日の遊戯は筋肉が伸びません。それは私は幼稚園の現在の遊戯に就いても非常に遺憾と思ふ所ですが、所謂藝術的遊戯になり過ぎて居ります。藝術的遊戯こいふものは手の伸びないのが良いのださうであります。伸びながら、伸びて居るのかと思ふ所に、縮んで居る所に味があるのださうであります。ぶつきら棒にやつたのでは藝術にはならない。すつこ伸びながらぶつき曲つて、變な角度で爪の先が皆曲つて居るのが藝術的だこいふのださうであります。殊に日本の遊戯、ミスペインの遊戯は何處かさうなつて居つて、カルメンが踊るにしても、何だか變に體を曲げて居ります。そこで幼稚園でも、お月様がゐるからお月様を見るのだこいふ遊戯に、お月様をまつ直ぐに見たらよからうと思ふのにそれではいけない。顔はかうして、體はかうして、色々な無理なこみをしなければ感じが出て來ないのださうです。或は指差すにしても、まつ直ぐに指差してはいかぬ。廻り廻つてお月様を指差す。もう少しぶつきら棒にこいふよりも、すつこ伸びるこ

こになりたいたいと思ふのであります。しなこいふものは伸びさうで伸びない所にしながある。笑ひさうで笑はなかつたりする所にしながあつて非常に面白い。抑制が働くのでありますが、これは幼稚園遊戯からは取去りたい。殊に本能感情がしばいに伸びて行くこいふ意味に於て、幼稚園の遊戯にこの位本能が取入れられて居るかこいふこを私は非常に疑ふのであります。

皆さまは御同感かさうか知りませんが、私のこの頃聞きます多くの話では、幼稚園では女の兒が遊戯を好む割合に、男の兒は遊戯を好まないこいふこを屢々仰しやる。さうして如何にして男の兒に遊戯を好ませるようにしやうかこいふこを研究しておいでになるかこ思ふのでありますが、女こいふ方は非常に男より高尚なものであります。本能なごには無關係な高尚な方でありますからそれは別でありませうが、男の兒は本能の非常に強いものでありまして、その本能的に伸びて行く機會を與へられなければ、思ひ切つて面白いこいふ所に行けないのであります。そこでたゞ菜の花が散ります。春の草が生えました。摘みます。それを持つて歸つておみやに致しませう。かういつたやうなやさしい氣持では男の兒はつまりません。この人形、熱はないか、お醫者さまを呼ばうか。そんなこは實につまらない。それよりも、草を取りますならば、さ、草の取りつこ、誰が一番早く澤山取つたか、こいふやうなこならば面白くなつて来る。取りつこでなくして、おみやげにしませうなんていふこは過重の言葉でありまして、取つて多かつた場合に土産にするだけで、初からおみやげにすることはなからう。これが教育者の非常にゆがんだもの、見方であると思ふが、それを摘みくらにすれば、本能になつて来る。或は人形にしましても、この人形を喧嘩でもしようこいふこならば、そこに本能が出て来るのであるが、同情的の態度だけをやるこいふやうなこは、幼兒として不適當な氣持であると思ふ。もう少し遊戯の中に本能要素を入れたら宜いと思ふのであります。本能を本體させるものは藝術でありますから、遊戯に藝術性を加へてみたらこ思ふ



のであります。

ある方はかういふ結論をなさる。都會の子供は殺風景の世界に居るのであるから、幼稚園へ来て殺風景を全く反對の活風景でも云ふのでありませうが、非常に柔い遊戯をさせて感情を柔げたいと思ふかも知れませんが、私は都市に於て伸び伸びとするここの出来ないバイタリチーをこゝでは遠慮なく發揮しろ云つて宜いのではないかと思ふ。かういふ意味からしまして、折角子供の喜んで居ります遊戯をいふものが、幼稚園に於てはさうも都會の子供の求むる所を満たすようにはなつてゐないと思ふ。田舎の亂暴な子供でありますならば、幼稚園に來まして柄にもなく繊細な筋肉を使ふこゝも面白いでせうけれども、さなきだに繊細のこゝで一ぱいになつて居る都會の子供を幼稚園では寧ろ野心満々たる生活を許して戴きたいと思ふのであります。今年、幼稚園の方で致しました講習で、新しい遊戯をその専門の人にお願ひしまして試みましたのでありますが、さうも現在の傾向の中には先刻申しました揃ふこゝがこゝに出て來まして、皆同じこゝをして居ります。皆同じこゝをするこゝいふのは集つてゐながら何等自分を本能的に興奮させて來る意義は一つもないと思ふ。一方が手を舉げれば皆手を舉げる。それが個人教師でなくても、そこに團體的な役割を加味してみますれば、そこに一種のエクサイチングなものが出て來るかと思へます。兎に角今日の都會の幼稚園でやつて居ります遊戯は餘りに情操的で、餘りに藝術的で、如何にも都會の殺風景な子供に適當して居るやうではありますけれども、甚だ都會の子供の眞に欲して居る所を満たすものではないと思ふのであります。

#### (四) 幼兒の空想性に關して

幼稚園の年齢の子供にして、都會に於て最も押え付けられて居ります者は、イマジネーションに陥ることは申すまでもないことであります。このイマジネーション云つたやうなことは兒童の自然の心理でもありませんけれども、幼兒の場合などで申しますならば、想像力は實は弱いものであります。環境の關係に依りまして、その空想的なものが導かれたり抑へられたりするのであります。そこで都會の生活を見ますと、角度の正しい建築、がっちりした壁、實に餘りにリアリズムでありまして、そこに何等の想像を伸びやかに化成させるやうなものが都會にはないのであります。田舎に行きますならば、原を通つて居ります路を見しても、何處まで續く路かといふ想像が起りませう。つづき山が裾を引いて居りまして、その裾野のつづき滑つて行く所、何處までなだらかに行くか。その裾野の上る所、何處まで山の高さが奥深く行くかといふことが、直ぐ想像に依つて起るのであります。東京の生活のように、總てがきちんきちんと規則正しく出来て居る所では、折角想像が出来しても、時々それを止められてしまふのであります。かういふ子供を幼稚園に入れました時に、その幼稚園は空想を豊かにさせることの出来る機會を與へてやりたいと思ふのであります。

その幼稚園に於て空想を化成さします問題は、主としてお話であります。このお話が私の考へる所では、近來、お話が持つて居ります外の意味が強調されて來まして、お話しといふものゝ本質であります空想性といふものが餘りに軽く見られて居るのではないかといふことを感ずる。昔はお話しといふことに就いて教育的價值といふものは考へられてゐなかつたものであらうと思ふ。お婆さんが孫などに話をして居りました時には教育的價值など考へたことはなかつた。たゞお婆さん自身の空想に入りまして、たゞ空想の愉快を味はつて居るさうなことで済んでしまふ。そこで空想からずつと傳はつて行つたものがお話であつたのであります。近來はお話を利用して情操を養ひたいさか、觀念を養ひたいさか色々なこまが入つて來ましたから、一番肝心の空想性といふものが何處かに行つてしまつて居るのではないか恐れるので

あります。その空想性が何處かに行つてしまつて居ります證據には、近來の人が、所謂お伽噺を申しても宜しいが、話の中にある空想性に就いて實に神經質に心配し出したのであります。例へば桃太郎の話をするにしましても、川から桃が流れて來た、それは本當なのだらうかさいふやうなことを直ぐ考へて來ます。私はこの夏色々な處を旅行して居りまして、近來癢に觸つてたまらぬことが一つある。それは色々な處で桃太郎の故郷を探して居ることであります。私が知つて居るだけでもかなり澤山あります。先生は子供のこゝに御興味がありませうから、桃太郎の故郷に連れて行つてくれる人があります。こゝの處で猿に遇ひました。話では遠方のやうになつて居りますけれど森の處に鬼が居りました。いやそれは嘘でありまして、四國のが本當でございますか、そこに色々な人が行きました、これが本當である、桃太郎誕生の地なきゝ云つて棒を立てたりして居るが、これは桃太郎さいふものゝ傳説を心理學的に調べようさいふこゝは、暇があるならしても宜いかも知れませんが、これは子供が桃太郎の話聞いて居る時に味はつて居る空想性さいふものが輕くなつてしまつて、空想に止まり得ないで、本當かさうかさいふ所まで大變餘計な空想をして居る結果であると思ふのであります。浦島太郎が龜に乗つて龍宮に入つて行つた、そんなことを子供に云つて宜いでせうか、えらく心配してゐらつしやる人がある。そんなことを云ひましたならば、物理の法則に反しやしないか(笑聲)。子供が龜に乗つて海に入つたらさうしませうさか、龍宮さいふものは果してあるかないかさいふこゝまで云ふのであります。これは私は想像性さいふものに就いての考が非常に薄弱になつた結果であると思ふのであります。寧ろ幼稚園低學年に於ては空想は空想の儘で話したら宜いと思ふ。それには先生が思ひ切つてその空想性の中に生きてゐなくてはならぬこゝは勿論であります。話しながら、本當か嘘か知りませんけれども(笑聲)、さいふやうなことを云つたり、さういふ風を半分しながら云つたりする話のしかたであつたのでは、決して子供の想像性を養ひ得るものではないのである。

私はあの窮窶な苦しい生活の中に入つて居ります子供に、せめて幼稚園の中に居ります時だけでも、思ふ存分のこゝをやらせたいといふ氣持をもつて居るが、或はそれだけで増長しましたならば、子供の發達の上に色々弊害もあるかも知れませんけれども、都會の窮窶な生活を救ふこゝいふためには、そこに一つの重點を置きたいと思ふのであります。そこで先生は良いお話をしようか、そのお話の中にさういふ教育的價値があるかといふこゝを餘り御心配にならないで、子供と共にこれ位イマヂネーションを擴げられるかといふ所に心を置いても宜いのであらうと思ふ。

この遊戲のお話といふものは非常に大切なものとして取扱はれて居るに拘らず、それが私共の見ます所では、今日は全く反對の方向に進んで居るやうな傾向を恐れました、少しく申上げて見た次第であります。